

## 各機関における最近の業務紹介

### 中国建築設計研究院（CAG）

中国建築設計研究院 弁公室 副主任 趙 林

（スライドNo. 1、2、3、4、5）

ご出席の皆様、こんにちは。まず、私の方から、設計院を代表して業務紹介をさせていただきます。

（スライドNo. 3、4、5）

まず、近年の成果を紹介します。当院は2013年、70億元を達成しました。ご覧いただきましたとおり、2007年以来、当グループは6年連続で成長し、成長率が30%以上となりました。資産総額は74億元を達成しました。

（スライドNo. 6）

2012年には、シンガポールのCPGグループを買収しました。CPGグループは180年の歴史を持つ、アジア地域の有名な建築設計の会社です。もともとはシンガポールの国家設計院であり、シンガポールのインフラの大部分はCPGグループが担当しています。例えばシンガポールのチャンギ空港、博物館等です。今回の買収は、中国国内で初めてのサービス業の会社の海外買収となりました。そして中国測量設計業界でも初めての買収です。CPGグループの収入は、当グループの6分の1を占めています。利潤のほうは10分1を占めています。現在当院は三重の国際化拠点を構築しました。一つは国際化業務開拓の拠点、国際化資金運用の拠点、国際化人材育成の拠点です。

（スライドNo. 7）

近年は、当院は人類文明を守る、文化遺産を多く申請しました。特に2012年は、中国十大文化ニュースの三つを占めました。続けて、当院は「紅河ハニ棚田郡の文化的景観」の世界遺産の申請後、中国・カザフ・キルギス共同申請シルクロードの登録に成功しました。

（スライドNo. 8）

そして2014年6月30日、中国建築設計研究院が発起し、國務院が承認して、中国建設科技集団株式会社が正式に設立されました。これは国内で注目を集めました。そして中国国内のマスコミはみんなこれについて報道しました。このグループの設立は、当院がこれからますます発展していく上で、良い事例となりました。

（スライドNo. 9）

このグループの資本金は全部で27.08億元、中国建築設計研究院は85%の株を持っており、中国電力と中国エネルギー建設、宇宙産業基金は合計15%の株を持っており、

（スライドNo. 10、11）

当グループの下の子会社は13社あります。当院の従業員は合計約8,400名です。そのうち外国人は約2,200名、約26.2%を占めています。24の国からで、その中に日本も含まれています。技術系の従業員は90%以上を占めています。

（スライドNo. 12、13、14）

続きまして、当院の日本と協力した近年の成果を報告します。まず、日中双方で注目されました、日中建築耐震技術者育成プロジェクト。皆さんよくご存じかもしれませんが、このプロジェクトは2009年5月12日、両国の政府が北京で調印し、始まりました。プロジェクトの期間は4年で、2013年5月31日に終了しました。このプロジェクトの中では中国国内の31の主要都市から合計13組、305名の研修生が訪日して研修を受けました。国内養成クラスは合計52期、専門スタッフ約1万名を養成しました。「建築耐震設計・補強鑑定」を編集、発行して、良い評価を得ました。このプロジェクトの内容は、建築耐震設計・補強と免震制震技術、都市総合防災計画など、多くの専門分野にわたっています。中国の建築耐震技術と都市総合防災計画を高める上で大きな意義を持っております。

(スライドNo. 15、16)

当院は日中双方の政府の支援を受けて、日中住宅モデルプロジェクトの中国側の業務を担当しました。このプロジェクトは当グループの子会社、中国建築標準設計研究院が準備、管理および技術開発設計を行いました。上海中森にもいろいろと尽力していただきました。中国国内の不動産会社トップブランドの4社がこのプロジェクトに参加しました。上海緑地、江蘇新城、大連億達、浙江宝業です。このプロジェクトでは住宅耐用期間全体の基本計画、部品製作、施工建設、保守更新、再生改造の全過程がシステム手法で総合的に考慮されました。技術システムは建設産業化、建築耐久化、品質優良化、エコ低CO<sub>2</sub>で、中国の新しいサステナブル住宅をつくり出すつもりです。このプロジェクトの実施は、中国住宅産業の転換と高度化を推進し、住宅建設の総合価値を高めるものです。

昨日、皆様は既にこのプロジェクトの2カ所の見学をされました。今日の会議の午後にもこの件について報告がありますので、この件についての私の話はここまでです。

(スライドNo. 17)

当グループは昨年の10月25日、日建設計グループと戦略的な協力協定を締結しました。今回の協定は中国建築設計研究院が地下空間の利用、アーバンコンプレックス設計、都市計画など多くの分野を開拓する上で重要なものであり、当院と日建設計グループのこれからの交流、活動、協力について定めたものです。

(スライドNo. 18、19、20)

最後に、当院の今後の発展構想をご報告します。当院の発展目標は国際競争力がある世界一流の設計企業になることです。実力を高め、世界の同種会社の先頭グループに入り、中国ハイエンドサービス業で最も実力のある世界ブランド、そして建設コンサルタント業で最も影響力のある国際ブランドになりたいと思います。成長の質が最もよく、技術力が最も高く、人材の質が最も優れ、幸福指数が最も高い企業になることが発展の目標です。

当院の目標と実現の方法は企業化、市場化、国際化、株式化です。

私の報告は以上ですが、当グループはこれからも国土交通省、日本建築センター、ベターリビング、日中建協とますます協力していきたいと思っています。ありがとうございました。